第５次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物

The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

オキナワイシカワガエル

Odorrana ishikawae (Stejneger, 1901)

戸田守（琉球大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会　爬虫類・両生類分科会

環境省 編

令和８（２０２６）年３月

特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：戸田守，2026．オキナワイシカワガエル．環境省（編）第５次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 481-485．

Citation: Toda, M., 2026. *Odorrana ishikawae* (Stejneger, 1901). *In*: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 481-485.

無尾目 Anura　アカガエル科 Ranidae　　日本固有

オキナワイシカワガエル

***Odorrana ishikawae* (Stejneger, 1901)**

カテゴリー判定結果　絶滅危惧ⅠB類（EN）　B2ab

基準 A:　—	基準 B:　EN	基準 C:　—	基準 D:　—	基準 E:　—

B2．生息地面積が 500 km²未満であると推定されるほか、次の兆候が見られる。
a) 生息地が過度に分断されているか、5 以下の地点に限定されている。
【地点数】5 地点以下
b) 出現範囲、生息地面積、生息地の質、生息地点数、成熟個体数のいずれかに継続的な減少が推定・予測される。
【判断理由】
森林伐採などにより生息地面積は狭まっていると考えられる。

評価分科会：　爬虫類・両生類分科会

概要

沖縄島のみに分布し、同島北部の常緑広葉樹の自然林および回復の進んだ二次林内の渓流沿いに生息する。近年の森林伐採や林道の整備により生息域が縮小し、個体数も減少している。

基礎情報

【形態】

成体の頭胴長はオスで 88～108 mm、メスで 103～115 mm。背面の基色は緑色で、暗褐色ないし黒紫色の円錐状の隆起が多数ある。虹彩は暗褐色で緑色の微小斑が散在する。四肢背面も緑色で、暗褐色斑が帯状になって暗帯を形成している。腹面は白色ないし淡黄白色で、淡褐色の斑紋で覆われるのが普通。吸盤、後肢のみずかきは比較的良く発達する。

【生活史】

繁殖期は 12 月～4 月で、2～3 月が最盛期。源流域の流れが緩やかな沢沿いの土手の穴の中や岩の割れ目などに産卵する。卵は黄白色で直径 2.9～3.5 mm、卵塊は球状だが個々の卵は遊離しやすい。幼生は産卵場近くの渓流の淀みなどで見つかり、多くは夏季に変態するが、越冬し、翌春に変態するものもある。性成熟までに要する年数は分かっていないが、オスの成体が 10 年以上にわたって繁殖地に現れたケースが報告されている。成体はヤスデやサワガニを捕食する。

【生息環境】

常緑広葉樹に覆われた山地の河川の源流域、上流域に生息する。本種の生息には一年を通して流れのある清冽な渓流の存在が不可欠である。非繁殖期の生息環境はよくわかっていないが、沢沿いで見かけることは多くなく、林内に分散していると思われる。

生息環境区分：	【陸域_低標高地】森林，河川源流域，河川上流域
国土地域区分：	(7) 島嶼地域

【分布域】

沖縄島北部の山林に固有。かつては名護市の山林や本部半島にも分布していた。

現在の生息状況

【分布域の現況】

1970 年代には名護市の渓流でも確認されていたが、1993 年の確認を最後に記録がない。また、かつては本部半島にも少数が生息していたが、現在では確認できなくなっている。現在の生息地は、塩屋湾と平良を結ぶラインから北側の地域に限られる。

【生息地の現況】

生息域の各地で林道の整備が進み、生息環境は悪化している。

【個体数の現況】

個体数は不明だが、生息域が縮小し、生息環境も悪化しているため個体数は減少していると思われる。

存続を脅かす要因

林道の敷設・拡張などによる生息地の消失、劣化が本種の生息を圧迫する主要因と考え

られる。また、林道の整備と交通量の増加に伴い轢死事故も増加していると考えられ、生息を脅かす一因となっている。商業用に違法採集されているとの見方もあるが、実態は不明。		
要因の区分：	（過去）	森林伐採，交通インフラ建設，ダム・河川工作物建設，捕獲・狩猟/園芸採取
	（現在）	森林伐採，交通インフラ建設，ダム・河川工作物建設，捕獲・狩猟/園芸採取

特記事項

DNA 分析に基づき、姉妹群のアマミイシカワガエルとの分岐は 200 万年よりも前に遡ると推定されている。また、両種を併せた系統は遺存性が高い。最近の集団遺伝学的研究により、本種の地理的な集団構造はアマミイシカワガエルと比べて単調であることが示されている。本種を含むニオイガエル属は中琉球・南琉球の地域から 6 種が知られ、琉球列島における種分化・多様化の過程を理解する上で学術的に高い価値を持つ。沖縄県の天然記念物に指定されている。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第４次 2020：	オキナワイシカワガエル	*Odorrana ishikawae*	EN
第４次 2019：	オキナワイシカワガエル	*Odorrana ishikawae*	EN
第４次 2018：	オキナワイシカワガエル	*Odorrana ishikawae*	EN
第４次 2017：	オキナワイシカワガエル	*Odorrana ishikawae*	EN
第４次 2015：	オキナワイシカワガエル	*Odorrana ishikawae*	EN
第４次：	オキナワイシカワガエル	*Odorrana ishikawae*	EN
第３次：	イシカワガエル	*Rana ishikawae*	EN
第２次：	イシカワガエル	*Rana ishikawae*	EN
第１次：	イシカワガエル	*Rana ishikawae*	V

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和６年度末時点）

【沖縄県】絶滅危惧ⅠB 類(EN)

保護に係る法令指定状況（令和７年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 千木良芳範，2005．イシカワガエル．改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（動物編）－レッドデータおきなわ－，pp. 133‐134．沖縄県文化環境部自然保護課，那覇．
- Igawa, T., S. Oumi, S. Katsuren, and M. Sumida, 2012. Population structure and landscape genetics of two endangered frog species of genus *Odorrana*: different scenarios on two islands. Heredity, 110: 46–56.
- Kuramoto, M., N. Satou, S. Oumi, A. Kurabayashi, and M. Sumida, 2011. Inter- and intra-island divergence in *Odorrana ishikawae* (Anura, Ranidae) of the Ryukyu Archipelago of Japan, with description of a new species. Zootaxa, 2767: 25–40.
- 松井正文，2021．オキナワイシカワガエル．日本爬虫両棲類学会（編），新日本両生爬虫類図鑑，pp. 58．サンライズ出版，彦根．
- 松井正文・前田憲男．2018．日本産カエル大鑑．文一総合出版，東京．272pp.
- Matsui, M., T. Shimada, H. Ota and T. Tanaka-Ueno, 2005. Multiple invasions of the Ryukyu Archipelago by Oriental frogs of the subgenus *Odorrana* with phylogenetic reassessment of the related subgenera of the genus *Rana*. Mol. Phyl. Evol., 37: 733–742.
- 小原祐二，2025．同一個体と考えられるオキナワイシカワガエルを複数年にわたって確認した事例–その 2．Akamata，34: 1-5．
- 太田英利，2000．イシカワガエル．改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物（両生類・爬虫類），pp. 78‐79．環境庁自然保護局野生生物課，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Odorrana ishikawae has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Odorrana ishikawae* is listed as EN under criteria B2ab.

B2. Area of occupancy estimated to be less than 500 km², and estimate indicating at least two of a-c:

a. Severely fragmented or known to exist at five or fewer locations.

b. Continuing decline, observed, inferred or projected, in any of the following:

(i) extent of occurrence

(ii) area of occupancy

(iii) area, extent and/or quality of habitat

(iv) number of locations or subpopulations

(v) number of mature individuals

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Low-altitude area】Forest, River headwater, Upper river basin
Threat types:	Logging and wood harvesting, Transportation infrastructure construction, Dam/River structures construction, Hunting and collecting animals/Gathering plants
Law designation status for	Nationally rare species of wild fauna and flora.

conservation	



執筆者:	戸田守（琉球大学）
Author:	Mamoru Toda

公表年月：2026 年 3 月